

【動画購入の方へ限定特典】

山下弘司先生のことだまコラム 全4話



【2020年はどんな年？名前が教える時代の動き①】男の子の名前「蓮」

「令和元年（2019年）赤ちゃん名前ランキング名前が教える時代の動き
男の子の名前が教える2019年と2020年

流行の名前でわかる日本の世相、時代の流れ。
子供の名前とは不思議な物で、**時代の映し鏡**みたいなものです。

名前には流行があります。
流行とはその時代が求めているもの、必要としているものです。

「**名前の流行を知ることで、時代の流れが読める**」ようになります。

女の子の名前は最近「子」が付きませんが、このブログを読んでいる方の多くは昭和生まれの方と思います。女性の方の多くは「子」の名前がつく方ではないかと思います。

最近「子」がつかず「香（か）」「菜（な）」などの「あかさたな～」が多いです。
それも名前のことだまからは明確に意味がわかるのです。

今日は、流行の男の名前から2019年、またこれからの時代の流れを読んでみましょう。

名前ランキングは明治安田生命保険が発表している
データを参考にしております。

（ベネッセもやっていますが、どちらかと言えば
明治安田生命の方が参考になります）

明治安田生命保険が出した 2019 年赤ちゃん名前ランキングの
今年の男の名前は 1 位は、

「蓮（れん）」です。

この名前は漢字の意味よりも、
ひびきの「れん」に焦点をあてるとわかってきます。

「蓮（れん）」は去年もランキング一位でしたので
二年連続「れん」の名前が人気があった名前です。

最近の子供の名前に「ら行音」をつけることが多いと思いませんか？

「蓮（れん）」
「稜（りょう）」
「怜央（れお）」

など。ら行音が多いのも最近の名前の特徴といえます。

今回は 4 位に「律（りつ）」が入っているのも大きな特徴です。

古代の日本語（やまとことば）の特徴は何かといえば、

ら行音で始まる言葉がないことです。

ら行で表す物、事象がなかったのです。

ら行音以外のことだまはすべて事象を表すものがあります。

ひ＝日
き＝木
め＝目
て＝手

などです。

やまとことばは「ら行音」の「ら」で始まるもの
「り」で始まるものがなかったのです。

「らっぱ」「りんご」「るり」など今では普通の日本語にも
ら行音で始まる言葉はあります。

「れ」の言葉なら「れんげ」「れもん」などありますが、この言葉ももともと日本にあった言葉ではありません。

これらのことばは途中、外国から入ってきた言葉なのです。途中と言っても古い物は千年以上の歳月が経っているものもあります。

やまとことばは漢字が入ってくる前から使われていた日本語です。1500年以上前には「ら行音」で始まる言葉は、日本にはなかったということなのです。

そうすると「ら行音」には外国から入ってきて日本に根付いた経緯があります。

その関係から「ら行音」は、**外国と関係が深いことだま**と見ていくのです。

外国と関係が深いとはどういうことでしょうか？

「ら行音」は20世紀と21世紀では働きが変化したとみています。

20世紀まではどちらかといえば
外国に行く、外国の文化を身に付ける、
外国のものを学ぶ働きが強くて出ていました。

21世紀以降はその働きが変わってきています。

外国に日本文化を発信する、それが「21世紀の「ら行音」の名前の働きになっています。

令和に入りさらにその働きが強くなっていくでしょう。

そのために日本文化を知る必要が出てきたのです。
今、多くの人が神社、伝統文化など和や日本に興味を持ってきているのは「ら行音」の働きといえるでしょう。

「蓮（れん）」に代表する「ら行音」の名前が増えてきたのは「**日本文化を知り、世界に発信しましょう**」と教えているのです。

世界の目が日本に向いています。
日本の文化を世界が求めていると思います。

ただ残念なことは、時代の流れと反対に日本のことではなく、英語を学ぶ方向に力を入れているお母さん、女性が多いことです。時代の流れを知る女性が増えるといいと思います。

新しい元号は令和（れいわ）

この元号も令和の時代の日本の流れを教えてください。

日本人が日本のことを知って、世界に発信する時代が来たことなのです。

外ばかりみていた人は日本の内にいろいろなヒントがあること、

世界に人に感動を与える素晴らしい知恵があることを気づいて欲しいと思っています。

「蓮（れん）」の名前を多くの人が求めているのは

時代が日本に目を向けることを教えているのです。

次回は女の子の名前からわかる時代について

書いてみましょう。

男の子	
順位	名前
1位	蓮
2位	陽翔
	新

【2020年はどんな年？名前が教える時代の動き②】女の子の名前「凜」

女の子の名前がおしえる2019年、2020年

「変革の時代」

12月に入りました。12月といえば今年の振り返りの月です。

今年の10大ニュース、新語大賞、今年の漢字など一年を振り返る記事が多くなります。

その中で今年生まれた赤ちゃん名前ランキングも発表されます。

名前ランキングは時代の流れをうまく表していてとても参考になります。

そして、名前ランキングを名前のことだま®の視点で

紐解くとまた面白いことがわかるのです。

名前ランキングはベネッセと明治安田生命保険が発表しておりますが、

私が参考にしているのは、明治安田生命保険の名前ランキングです。

ここの情報は 100 年以上前からの情報を出していますので
時代の流れがよくわかって面白いです。

私たち日本人は時代、世相を名前に込めることがあります。

戦争中は「勝」などの名前が多いですし、
昭和に入ると突然「昭」の名前がでてくるのも時代の流れを教えてください。

平成になると「公平」「祥平」「成美」が増えたのも
平成の元号を名前に込めたからです。

一般的には漢字の意味合いで時代、世相を占いますが名前のことだま[®]は
漢字の意味も含めて、音で見ていくのが大きな特徴です。

最近、多い名前は時代が求めているもの、この時代に必要なことを教えてください。

明治安田生命保険が出した 2019 年赤ちゃん名前ランキングの
女の子の名前 1 位はどんな名前でしょう。

それが「凛（りん）」です。

この「凛」の名前に現代、またこれからの日本の流れが象徴されているのです。

「凛」は平成 26 年にも一位になっていますし
ここ 10 年ほどはベストテンに入る人気のある名前です。

多くは漢字の意味の「凛々しい」や「凛とした」ことを
女の子に求めているのでしょう。

名前のことだまではまた違った意味づけになります。

名前の流行は意味なんかなくとも、単なる偶然ということもいえますが、
名前のことだま[®]は意味づけですからここの意味づけすると
また違った風景が見えてきます。

「凛（りん）」の「り」の持つ意味は「ら行音」の働きです。

何度もお話ししていますが、やまとことばには「ら行音」で始まる
言葉、事象がありませんでした。

とはいえ「ら行音」自体がなかったわけではありません。

「ら行音」を使うルールがあったのです。

それは語尾の下につけて動きを表す音として使っていました。

からから
きりきり
くるくる
ころころ

以上のような使い方です。

「ら行音」は舌を動かさないと使えないことから、回転の働きがあります。
回転の動きから

加速

変革

この二つを時代が求めていると見ていくのです。

男の子の名前「蓮（れん）」
女の子の名前「凛（りん）」

トップに男女とも「ら行音」の名前が来るのは
次の意味です。

①日本文化を世界に発信

②変革の時代

令和の始まりの2019年以降は日本文化を発信する時代が大きく変化する
名前は時代の兆しなのです。

名前のことだま®がわかると時代の流れが面白いから読み解けてきます。
日本文化を知る時代が大きく変化する
その時代の流れに乗って令和を過ごしていきましょう！

凛

【2020年はどんな年？名前が教える時代の動き③】男女に多い「と」

流行の名前が教える2019年、2020年

流行の名前でわかる日本の世相、時代の流れ何かが終わり、何かが始まる時
子供の名前とは不思議な物で、時代の映し鏡みたいなものです。

男の子の名前（蓮・れん）

女の子の名前（凜・りん）

「蓮（れん）」「凜（りん）」と

「ら行音」と「ん」で終わる名前

昨年の特徴はこの二つです。

「ら行音」が持つことだまの働きである、海外との関係が出てきます。

日本文化を世界に発信する国際人が必要ということですね。

海外の文化、技術、思想を学ぶだけでなく、

海外に日本の文化、技術、思想を伝える時代になってきたということです。

2020年の東京五輪

2025年の大阪万博

二つの大きなプロジェクトはまさに

世界の人たちに日本文化を発信するまたとない機会になるでしょう。

世界の目が日本に降り注ぎます。

ぜひ、日本の文化を世界に伝える人になりたいものです。

歌舞伎、禅など伝統文化やアニメなど世界に発信するものはたくさんありますが
わかりやすく日本文化を伝えるツールが名前のことだま®です。

そして、今回の特徴は

「蓮（れん）」「凜（りん）」から

わかるもう一つのことだまの意味。

それが「ん」です。

最近「ん」の名前が多いのも特徴です。

この「ん」ということだまは

終わり、という意味を持ちます。

「ん」は五十音でも最後に出てくる音です。
面白いことに、やまとことばには「ん」はありませんでした。

古事記は「ん」の用途がありません。
だから、日本語で「ん」で始める言葉がないのです。
これは「ら行音」と全く同じ働きです。

ひらがなで最後にできたのが「ん」と言われています。
時代は平安時代です。

「む」が変化して「ん」になったいきさつがあります。
ということで「ん」は終わりの意味です。

私たちは子供の頃にしりとりをして「ん」がでると終わるということを学ぶのです。

そうすると「ん」が多くなるとは

何かが終わることの兆しを教えているといえるでしょう。

時代が終わると言えば平成が終わることはそれを教えていますね。
何が終わっていくのかいろいろと考えてみるのもいいと思っています。

それから、終わるといってネガティブな感情を持つ方もいらっしゃると思います。
それは西洋的な価値観から生まれてきたものです。

西洋（キリスト教）の時代の流れは終末観というものがあります。
文学、映画、歌など西洋文化には終末をモチーフにしたものがたくさんあります。

仏教などにも終末観はあります。ミロク信仰などはそれを教えているのです。

でも日本には終末観というものが古代はなかったのです。
日本神話には終末観自体がありません。

世の終わりという考え方自体がないのです。

日本では終わることは決してネガティブではなく、むしろポジティブなイメージです。
さらなるステージアップできるための条件が終わることなのです。

日本語は「終わると上がる」という表現があります。
すぐろくも終わることを「上がり」
トランプで役が出ることを「上がる」
最後に出てくるお茶を「上がり」
仕事が終わることを「上がる」

以上のように終わること上がるといいます。

終わること上がる、さらなるステージアップする。
無限に成長していく。

それを日本では「道」という言葉で表現しました。

終わるとは次の段階に進む区切りなのです。

名前に「ん」が多くなったのは

次の時代にステージアップしていく時がきたことを教えているのです。

その視点で世の中を見ていくと新たな発見があって面白いと思います。

終わって「あがる」ステージアップする。

そのときに必要なのが**喜びで終わる**ということなのです。

流行の名前が教えるこれからの時代の兆し楽しみになってきました。

時代を先読みして新しい時代を作っていきましょう。

ん

【2020年はどんな年？名前が教える時代の動き④】「と」が伝える

男の子の名前がおしえる 2019年、2020年

終わり、始まる時代の幕開け

子供の名前とは不思議な物で、時代の映し鏡みたいなものです。

「ら行音」、「ん」の音

それらのことだまが最近の子供の名前に多くつけられます。

人気の音と言ってもいいでしょう。そこから共通点を見ていきましょう。

「ら行音」の海外発信

日本文化を海外に発信する時代

そのために日本の文化を知る時代

「ん」、50音最後の音
終わりの音、何かが終わること。
終わることで新しいステージが始まること。

今日は子供の名前から見る時代の流れの最終回ですが、
子供の名前から見えてくるもう一つの風景があります。

【2019年の男の名前ランキングベスト 10】

- 1位 蓮（れん）
- 2位 陽翔（ひろと）
- 3位 新（あらた）
- 4位 湊（みなと）
- 5位 蒼（そう）
- 6位 律（りつ）
- 7位 樹（いつき）
- 8位 大翔（ひろと）
- 9位 悠真（ゆうま）
- 10位 朝陽（あさひ）

漢字では大、陽、真などが人気があるようです。
そして、このランキングを見て感じたのが「と」の音が多いこと。

多い音の一つが「と」の音です。男の子の名前によく使われます。
最近では語尾に「と」をつける傾向があります。

まさと
はると
みなと
ゆうと
かいと

漢字としては

斗
翔
人

などを当てます。

「と」の名前が多くなったことも名前のことだま[®]からひもとけるのです。

「と」は「+」の意味があります。

日本語の数え方に「ひふみ～」があります。「ひ」ではじまり「と」で終わるのです。

日本語とはよくできているもので
時間の流れを「ひふみ」で教えているのです。

「ひ」で始まる、つまり「ひらく」
「と」で終わる、つまり「とじる」

一から十までの流れ中に
開いて閉じるまでのプロセスが書かれてあるのです。

何気なく使う日本語の中に日本人の時間感覚、目標達成のプロセス（課程）が
記されていることを知るととても面白くありませんか？

「と」は「十」の意味で終わりを表すことだます。
前回の「ん」のところでもお話ししましたが、
何かが終わる、それを「と」の名前も教えているのです。

紅白歌合戦や落語で最後に出てくる人を
「とり」と呼び、
「と」は閉じる、止まる、整える、留まるなど一連の動きが止まる、最終段階を表します。

最近の男の子の名前に「と」の音をつけるのは時代の流れを両親が無意識にキャッチして
それに適した名前をつけているのだと思うのです。

何かが終わわり、新しい始まりの時

それが2019年であり、また平成を終えて新しい時代に向けてのメッセージのようです。

始めるためには一旦区切る必要がある。
それを教えているのが「と」のことだまなのです。

ここ数年、「ん」の音、「と」の音が増えてきたのは
時代が終わわり、新しい時代の始まりを教えているのでしょう。

日本語の不思議な表現

終わると上がる
終わることを「お開き」

時代がステージアップする時に
来ています。
その時に必要なことが**喜びで終わる**ということなのです。

嫌々や不平不満を抱えていては終わらないです。
落とし前をつけて新しい時代を迎えていきましょう。

と

※詳細は名前のことだま HP にて。【**名前のことだま 山下**】←こちらで

検 索



※Facebook ページはこちら→ <https://www.facebook.com/kototama/>

※資料の無断複写、転載を禁じます

